

『東北大 鬼城句会』

令和二年三月二十七日（金） ※ 通信句会
兼題「花冷え」「仔馬」「気（要季語）」 当季雑詠

第八十九回 自選句とコメント （参加者八名）

～時節柄今回は集会を避け通信句会となった。

漱石と子規の語らひ春光る 三浦 三甫
日経新聞の小説で、子規と漱石の暖かな交友を
読んで浮かんだ一句。

若駒の行く末思ふ傘寿かな 白石 玄舟
多難な時代に船出する若者達。「良い航海を！」
とエールを送りたい。

故郷はこの空の果て辛夷咲く 奥山 游悦
故郷は年々遠くなる。今年も東京に辛夷が咲く
季節になった。あの空の彼方に故郷が・・・。

花冷えや焼酎お湯割り熱うせよ 大立目茂睡
満開の桜に降雪。コロナにはアルコール消毒。
冷える夜には熱いお湯割り。

磐梯を望む原っぱ子馬いて 武蔵 弁慶
磐梯山はわが故郷の山であり外すわけにはいかな
い。心の名山である。

花冷えやはやり病ひの先見えず 深谷 柏葉
この病いが日本を襲ったのは、花冷えの季節前。
春を過ぎ、夏になっても一向に先は見えない。

花冷えや夜の森公園封鎖解く 松本 貞風
花冷えの東京が開花を宣言した日、富岡町（福
島県）の津波による封鎖が十年ぶりに解かれた。

病む友の古き手紙や春疾風 岩渕 如雨
国民学校からの古き友が倒れて三年、黄ばんだ
古い葉書が出てきた。南風が大きく樹を揺する。

◇互選句（二点句以上 ☆は特選）

四点句		気を持たず標本木の花一輪	如雨
三点句		故郷はこの空の果て辛夷咲く	游悦
二点句	☆	病む友の古き手紙や春疾風	如雨
	☆	朧夜や傘寿息災急ぐまじ	如雨
		仕送りの礼状最後卒業す	貞風
		マスクかけ声なく歩む花見かな	茂睡
		花冷えや焼酎お湯割り熱うせよ	茂睡
		忍び寄るコロナの気配花冷える	游悦
		子供らに元気をもらふ磯遊び	游悦
		花冷えや今年の花は幸薄く	茂睡
		朧夜や傘寿息災急ぐまじ	如雨

深谷 柏葉 記